

いまではスリー・マティーニ・ランチはもう昔の話

スリー・マティーニ・ランチとは、米国でビジネスマンやエグゼクティブがアルコールを飲みながら楽しんでいたゆっくりとしたランチのことだ。多くのビジネスマンが、このランチをとりながらビジネスの案件を話していた。ビジネスマンは勤務中のランチ時にマティーニを飲みながら食事をする十分な時間と余裕を持っていた。しかしスリー・マティーニ・ランチは、もう昔の話。アメリカ社会からこの言葉は消え去ってしまって久しい。ビジネスマンがゆっくりと過ごす時間が減少したこと、日中にアルコールを飲むことに対する世間の目などが原因だ。

私は個人的には、ランチぐらいはゆっくり楽しむのはいいことだと思う。同じ部門の社員、あるいは仕事で関係のある他部門の社員と、ランチを取りながら話し合い、交流を深めることは人間関係形成上、きわめて効果的だと思っていた。私が勤務していた外資系企業では入社した頃、昼食手当として700円が支給されていた。手当てを廃止する流れの中で、この手当は本給に組み込まれた。しかしその後も社員は、近くの小奇麗なレストランに同僚と出かけ、ランチと会話を楽しんでいた。アルコールこそないがスリー・マティーニ・ランチを楽しんでいた。



出典: Wikipedia

米国の従業員の 1/3 がデスクで昼食を摂っている

Manpower グループのコンサルタントであるライトマネジメントの調査によると従業員の 1/3 は毎日彼らのデスクで昼食をとっている。また、別の 1/3 は昼食をまったくとらないか、時々とるだけだという。ライトマネジメントは 7 月と 8 月に、オンラインで 751 人の北アメリカの従業員に「あなたは昼食のために定期的に休憩を取っているか？」とたずねた。回答は次のとおり。

- はい、いつもとる: 35%
- はい、しかし通常はデスクでとる: 34%
- 時々とるだけ: 15%
- めったにしかとらない: 16%

「この調査結果から、いま北アメリカ(米国、カナダ)の職場での状況を推察することが可能だ。すなわち、周知の事実であるが、生産性と業績を上げるためのプレッシャーが止まることのないということだ。」とライトマネジメント社上席副社長(人事担当)マイケル・ヘイドが語っている。

「3 人に 1 人の従業員が PC と電話の前で、しかも上司と同僚と一緒に、ランチをとっているという調査結果が示すように、従業員のこのプレッシャーは、色々な形でますます強まっている。したがってこのような昼食が真の休憩になっているかどうかはなほだ疑問だ。しかも、めったにしか、あるいは時々しかランチ休憩をとらない従業員が 31% もいる。また少数の従業員しかデスクを離れないようだ。どれほどの従業員がランチタイムに実際に職場を離れ、頭の切り替えをしているかをリーダーは考える必要がある。さらに、本当の休憩をとらないこと、仕事の停止をしないことが従業員の幸福と組織全体の業績にとってどれほどのマイナスとなっているかを考える必要がある。」

ヘイド氏は「従業員が休憩を取るのを止めておこうという気持ちは会社が従業員により少ない資源でより多くのことをやらせようとしていることから来る容赦のないプレッシャーの結果である」と考えている。また「職場風土または管理職の言動が、従業員に、ランチ時にもデスクに留まっていなくてはならないと感じさせている可能性がある」とも述べ、上司の顔色を伺う職場風土が米国の職場にもあることを語っている。

ロンドン大学経済学部のリチャード・レイヤード教授は「この 50 年の間に、西欧社会では比類ない経済成長を成し遂げた。より素敵な家、車、休日、仕事、教育、およびとりわけ健康を享受してきた。一般的な経済理論によれば、これらのことは私達をもっと幸福にするはずであった。しかし、色々な調査は別のことを示している。英国人あるいはアメリカ人は、どれほど幸福であるかを尋ねられた時に、『この 50 年の間に全然よくなっていない』と回答している。」と現在の大不況が来る前の 2005 年に語っていた。それから 6 年が経ち、経済はより悪化し、失業は増え、幸福感はさらに減少したといえる。日本においても状況に差はない。もう、スリー・マティーニ・ランチの時代へは戻れないのだろうか。

編 | 集 | 後 | 記

2 年前にフランス企業の日本法人の CEO と会議の後、レストランでランチを取ることがありました。ワインを飲みながらのゆったりとした楽しいランチで会話が弾みました。経済状況は悪化していますが、ミクロ的にはチームリーダーがリーダーシップを発揮できる機会はまだまだ残されています。忙中閑あり。毎日アクセク過ごす必要はなく、リーダーがその気になれば、ランチをゆっくり楽しむ機会そして風土を創れるはずですよ。野尻